

中野総合学科新校 施設整備基本設計報告 説明資料

令和8年4月28日

中野市中央公民館

中野総合学科新校（仮称）施設整備事業設計業務 ＜基本設計報告会＞

1. 中野総合学校新校（仮称）の目指す校舎について

- ・ 新校舎の骨子（基本計画案のおさらい）
- ・ 基本計画時の全体平面図

2. 基本設計内容について

- ・ それぞれの空間コンセプトの確認・明確化
- ・ 基本設計案の説明（校舎）
- ・ 基本設計案の説明（外構）

3. 整備プロセスについて

- ・ 工事ステップと仮設校舎配置・プラン

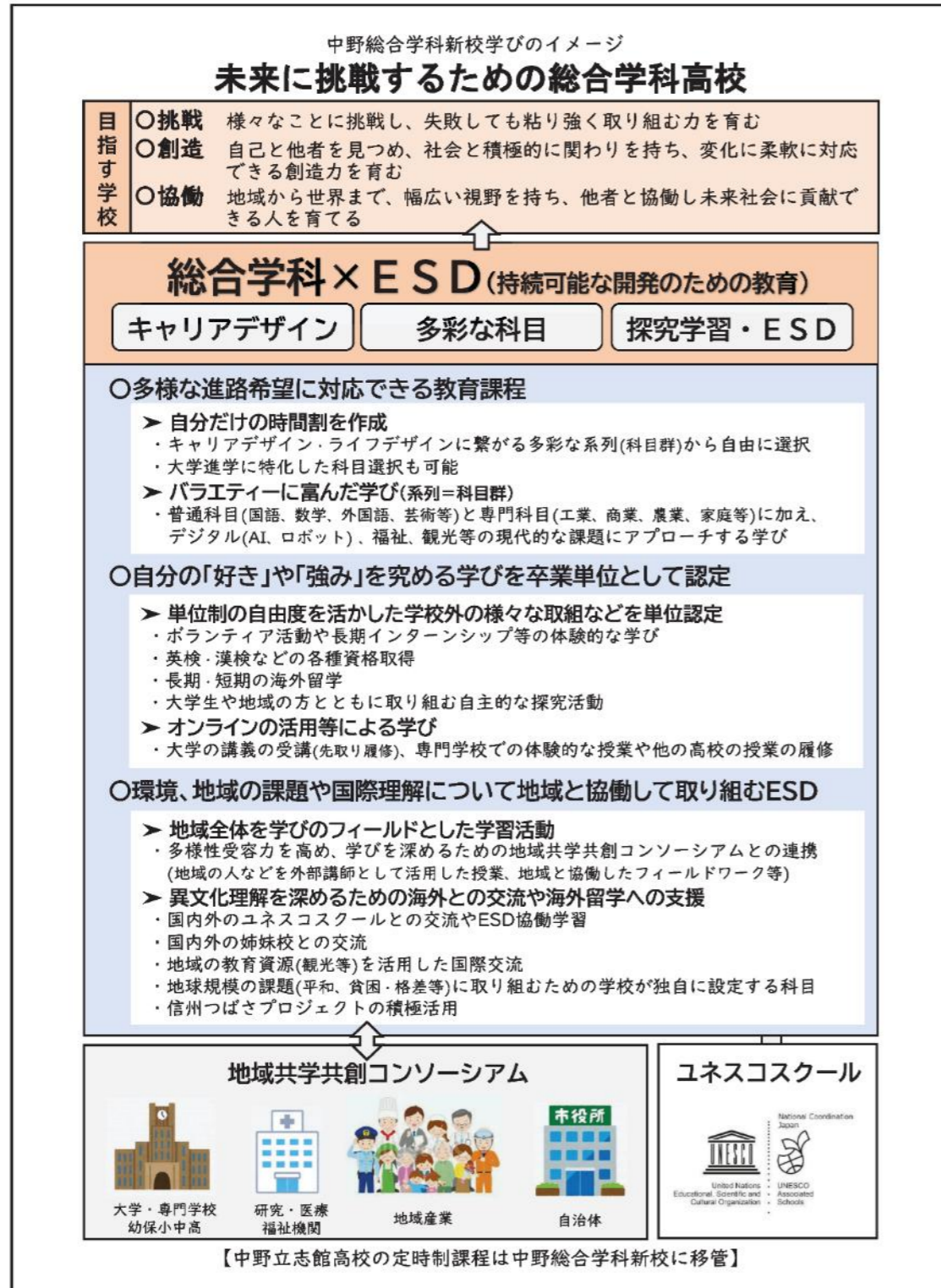
1. 中野総合学校新校（仮称）の目指す校舎について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・新校舎の骨子（基本計画案のおさらい）

■ <中野総合学科新校（仮称）再編実施基本計画>における「学びのイメージ」

中野立志館高等学校の総合学科、中野西高等学校のユネスコスクール^{注1}の学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びであるESD（持続可能な開発のための教育）^{注2}をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の学びの拠点となる総合学科高校を構想する（下記概念図を参照）。



■ 「学びのイメージ」の具現化に向けた施設整備の骨子

かつて天領中野として栄えた由緒ある地にたつ中野総合学科新校(仮称)では、地域から世界まで幅広い視野をもって他者と共同し、未来に挑戦できる人材の育成が期待されている。また、専門性を深めていく総合学科の特徴と、地域や世界へとつながるユネスコスクール・ESD教育の特徴を、空間化することが求められている。そこで、地球規模で考え、地域社会で行動を起こす新しい高校の姿「総合学科×ESD」の実現を目指し、4つの空間的アイデアを新校施設整備の骨子とする。

1. まちに接続し、開かれた学校

学校の玄関口には地域イベントにも対応した多目的の「ソラひろば」を設け、向かいのソラホール、市役所と連携して中野のパブリックスペースの核を構成する。西高校で実践を引き継ぐ「中野カフェ（地域連携協働室）」、立志館高校の専門性を活かす「ファブラボ」を、両校統合の象徴としてソラひろばに面して配置する。

2. 交流・表現の軸「ラーニングパサージュ」

多様な科目専攻の生徒が同じ時間を過ごす総合学科の特徴を活かし、出会いや発見、知恵の交換が生まれる「ラーニングパサージュ」を新校の軸に据え、新旧の校舎を内部空間でつなぐ。中野の南北軸を表徴する2層吹抜けの空間に、個別最適の学びから協働の学びまで、様々な学びのシーンが展開する。



南西上空からの鳥瞰イメージ。中央の南北に縦長い空間が「ラーニングパサージュ」

3. 総合学科の学びに対応した学習空間

必修科目がメインの1年生はESD（持続可能な開発のための教育）の基礎を落ち着いて学ぶ「家」のような安定した学習・生活環境とし、選択科目がメインとなり移動が多くなる2・3年生にはフレキシビリティの高い教室、ロッカーラウンジや発表ギャラリーを確保するなど、総合学科特有の段階に応じた学びに対応できる学習空間をきめ細やかに計画する。

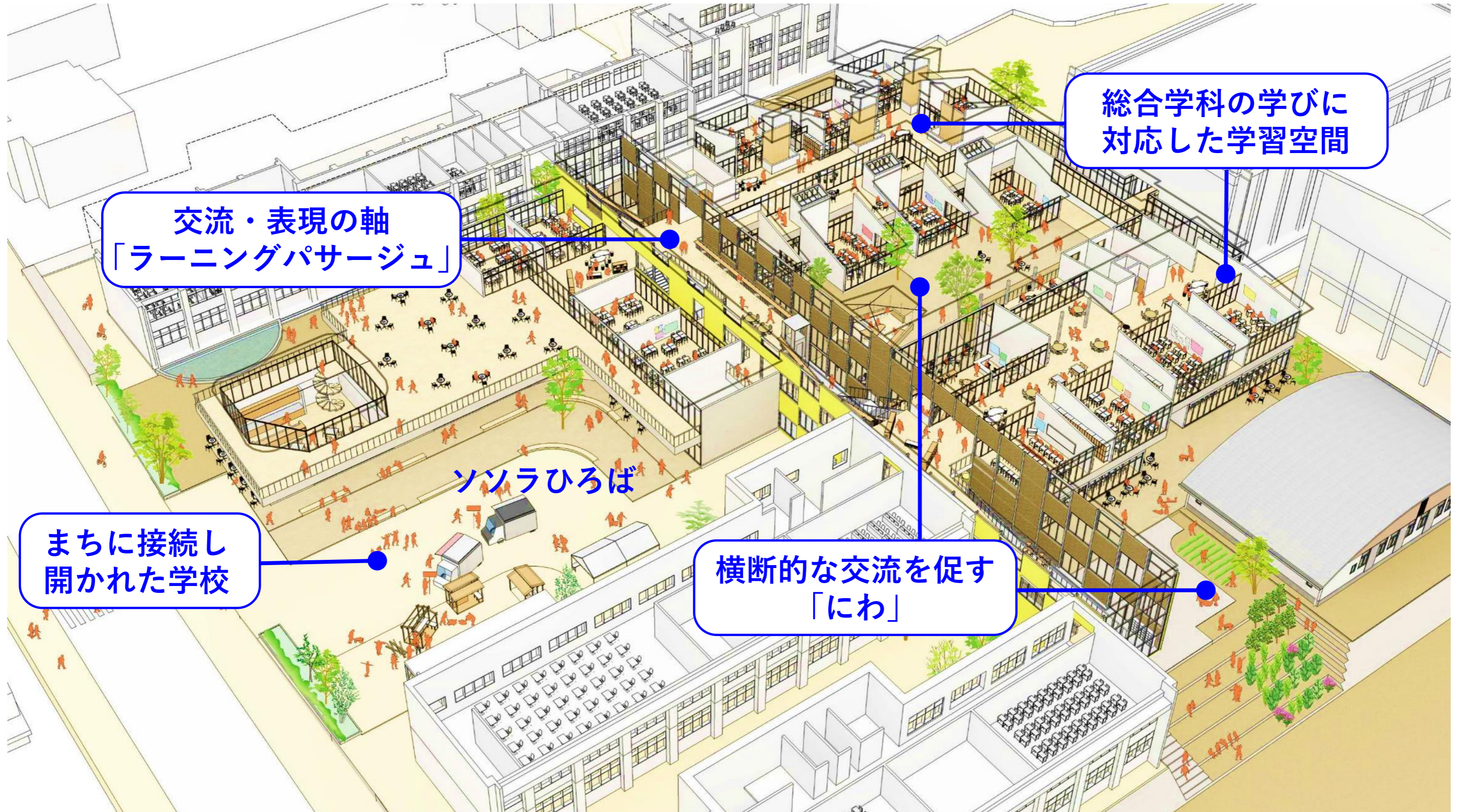
4. 横断的な交流を促す「にわ」

校舎の間には、「こもれびのにわ」「だんだんのにわ」といった多様な性格の「にわ」を計画し、建物内だけでなく外部空間も大事な学びの空間として設える。上下足一足制とすることで、現状の上下足混在状況を解消し、校舎内外を連続的に使うことを視野に入れる。授業間の空きコマや休み時間を過ごす憩いの場として、さまざまな交流の機会を生み出す。

1. 中野総合学校新校（仮称）の目指す校舎について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・新校舎の骨子（基本計画案のおさらい）



2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

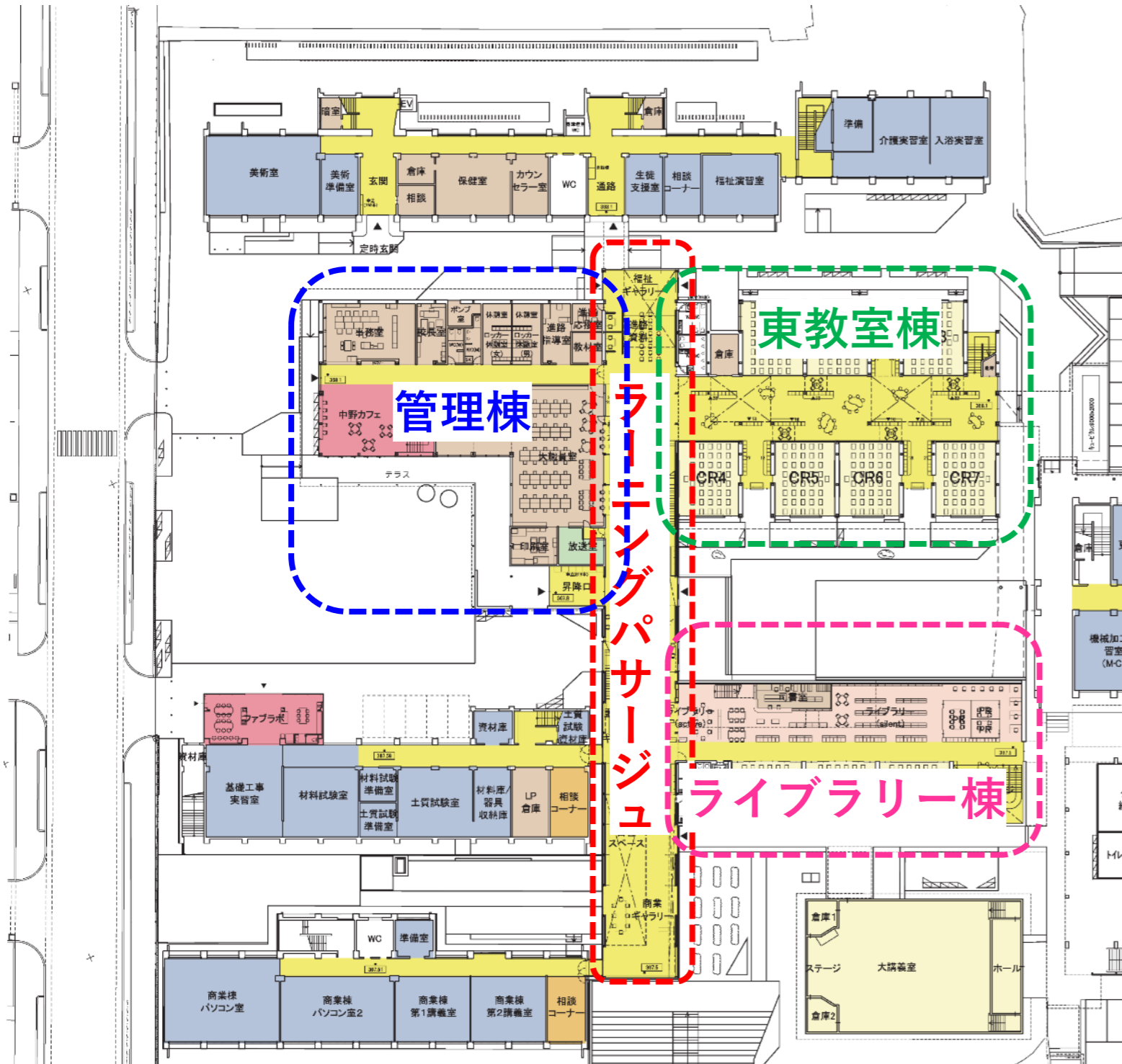
・それぞれの空間コンセプトの確認・明確化

施設名	長野スクールデザイン2020の位置づけ (抜粋)	基本計画における記載内容	設置目的	利用対象	想定される活動内容 (アイデア)
(例) 中野カフェ			・なぜ設置するのか ・どんな課題を解決したいのか ・どんな価値を生み出したいか	・誰が利用するのか (生徒、教職員、地域住民、企業等) ・どんなニーズ、期待があるか	・どんな活動ができるか ・日常的な利用とイベント的な利用の両方を想定
1. 中野カフェ (地域連携協働室)	・地域開放による学校以外の人との共同利用だけに留まらず、地域や企業の人々が、日常的に来校し、生徒と一緒に考え、何かをつくりあげていくことができる空間 ・生徒が容易に外の社会と関係を構築できる学校施設が必要となっており、例えば、共創空間の一つとして「地域連携協働室」が考えられる。	西高校で実践されてきた中西珈琲の取組を継承	・地域と生徒が交流・協働できる場をつくり、学びと地域貢献を両立させるため。	・探究活動をする高校生 ・地域の企業、様々な世代の住民	・生徒によるカフェ運営 (出張販売) ・定時制生徒の給食 ・地域の人のワークショップ ・生徒によるカフェ運営、実習や文化祭等での販売 ・生徒会主催の居場所カフェ (イベント) ・地域コーディネーターによる、地域の方との交流イベント ・地元企業の製品展示
2. FLA	・グループワークでの活用等使用目的に応じて柔軟に変えられる。 ・生徒の日常的な動線 (廊下) に学習や談話ができる空間を重ねたFLA (中略) のような、生徒の活動内容によって呼び名が変わる流動的な空間	教室と連続して学びの場所をつくる	・廊下を単なる動線とするのではなく、廊下を含む教室やその周囲全体で学びの場とすることで、講義形式に囚われない多様な学びのシーンに対応するため。	・生徒 ・教職員	・授業中などにおけるグループワーク ・空き時間、放課後における自主的な学習 ・生徒の作品展示 ・学年文庫 ・進路ガイダンス等の説明会ブース ・昼食 ・教室の枠を超えた授業 ・簡易的な椅子、机を設置してコミュニケーションスペースとして ・クラスを超えたグループワーク
3. ラーニングパサージュ	・「探究的な学び」を実現するためには、学校内のいたるところで学びが展開できるような、空間の連続性や相互の連携が必要不可欠であり、空間と空間 (教室、特別教室、大職員室、廊下等) を有機的に結びつけることができる「ハブ」となる空間が必要である。 ・空間を結び付けることで、教科の枠を超えた融合的な学びや、多様な授業形態に対応できる施設・空間となる。 ・「廊下」の幅員を部分的に拡張し、コーナーとして家具を配置するなど、移動以外の活動のきっかけを生み出し、生徒たちの多様な学びに柔軟に対応出来るしつらえとすることで、今までは通路としての機能を持っていた「廊下」が、普通教室や特別教室等とつながる「ハブ」としての役割を持つことになる。	教室でも廊下でもない第3の学びの空間 授業や探究の成果物を掲示したり、各専門科での制作物を展示したり、新校での様々な活動に満ちた場 総合学科では1年生が2、3年生の学びに早期に出会い、将来を考える	・複数の校舎間の移動を内部空間で繋ぐことで、移動時の快適性を担保するため。 ・単なる通路ではなく、様々な活動や学びの場へ昇華させることで、校舎を効率的に活用するため。 ・総合学科という特徴を踏まえ、様々な学びの「見える化」を図るため。	・生徒 ・教職員 ・(地域住民) ・(企業)	・授業中などにおけるグループワーク ・空き時間、放課後における自主的な学習 ・モニター設置による、生徒への連絡掲示板 ・授業や探究などでの学びによる成果物の展示 ・探究などに活用できる書籍の配置 ・文化祭での販売、イベントスペース ・学年、進路行事 ・自習カウンター ・課題提出のための棚 ・各種展示 ・科目選択説明会や企業説明会 ・部活動スペース ・お店、購買、商業科販売 ・チームで協働しての作業 ・生徒個別の質問や相談に乗れる場所の設定
4. ライブラリ	・図書館とパソコン教室を一体化したいいわゆる「メディアセンター」を整備することにより、深い専門知識が得られる書籍と、世界中の情報にアクセスするデジタルデバイス等が融合され、知識や情報の共有化による新たな価値の創造など、多様な学びのかたちに対応することが可能	ラーニングパサージュとこもれびのにわと面し、内外連続的な利用を促す 学校の中心的な空間	・これまでの図書館機能を保持するため。 ・探究活動や専門科での学習に対応するため。	・生徒 ・教職員 ・(地域住民) ・(企業)	・授業や探究活動などにおいて、いつでもどこでも学習できる環境づくり ・多様な教育活動の促進、支援 ・ゼミナールへの参加支援 ・教材研究 ・ICTコーナー、電子書籍アクセススペース ・個別学習スペース ・一人の生徒の居場所 ・生徒会活動 ・探究に必要なCDや映像の視聴 ・調べ物ができるスペース ・机等によるゾーニング
5. ファブラボ	・生徒や他者との議論などを通じて、自らの思考を深める過程で、実際に手を動かしながら試行錯誤し、何かを創造していくための工具や3Dプリンター等を備えた「クリエイティブラボ」のような空間が不可欠。 ・これにより、例えば、長野県の特徴ある伝統工芸や精密機器産業と関わり、地域振興につながることも考えられる。	立志館高校の専門性を活かしたものづくり工房	・地域と生徒がモノづくりを通じて協働・交流できる場を作り、学びと地域貢献を両立させるため。	・生徒 ・教職員 ・地域住民 ・企業	・中野カフェ等で活用できる工芸品製作 ・文化祭等での工芸品の展示、販売 ・課題研究、探究での個人製作 ・専門家を講師として誘引するイベント ・公民館の機能、カルチャースクール開催 ・そば打ち、工作、DIY教室 ・オリジナルグッズ作り、販売 ・3Dプリンター、工具等を使っての制作 ・焼き物や工芸品等の制作
6. 大職員室	・長野県の県立高等学校では、教科毎に研究室・準備室等を校内に点在させる配置が一般的で、日常的に教職員が一堂に会する場所が無い中で、教職員間での情報共有、教科の枠を超えた融合的な学び、緊急事態が生じた場合の情報伝達や対応などに課題 ・教職員が一堂に会することができる「大職員室」と呼ばれる空間の整備が有効である。これにより、教科の枠を超えた質の高い授業の展開が期待されるとともに、災害の発生時にも早急な対応が可能となる。		・これまで各研究室で行ってきた業務を行うため。 ・教職員間での情報共有、教科の枠を超えた融合的な学び、緊急事態が生じた場合の情報伝達や対応などに対応するため。	・教職員 ・(生徒)	・学習や進路などに関するさまざまな相談、支援 ・教科、分掌、学年単位での情報共有の場 ・相談コーナー (保護者・生徒個別対応) ・談話コーナー (兼休憩スペース) ・職員会
7. 先生コーナー	・これまで教職員が常駐していた研究室は基本的には置かず、準備室は一時的に使用する場所として、特別教室と一体的に活用することが考えられる。 ・教科の準備、生徒からの質問・相談コーナーなどの執務空間と学習空間を連携させる「ハブ」として機能させることで、教職員と生徒の交流の場となり、生徒の自主的な学習を支援することが可能となる。		・各専門科の教材スペースを確保するため。 ・保管している教材を用いながら、生徒への個別対応を行うため。 ・専門科棟での授業が連続する場合等に、授業準備の場所として機能させるため。	・教職員 ・生徒	・生徒からの学習などに関わる質問、相談 ・専門科教員の教材研究、授業準備、打ち合わせ ・個別補習 ・専門科の教員の常駐室とし、大職員室は普通科教員と生徒相談スペースとして利用 ・個人的に学習指導や相談にチームでたいお うできるように工夫
8. ソノラひろば		地域イベント・学校行事・日常的な活動といった多目的に利用できるようおおらかな構成である地域の方々を訪れやすい開かれた空間	・学校の玄関口として、地域との交流の入り口として機能させるため。 ・学校行事や日常的な活動、地域イベント等が、地域に見える箇所で営まれることにより、学校をより開かれたものとするため。	・生徒 ・教職員 ・地域住民 ・企業	・文化祭等におけるイベント (発表、模擬店ブース等) ・販売実習 ・駐車場
9. こもれびのにわ		大人数から少数まで多様な活動に対応し、学年を超えた交流や利用を促す外部空間 ライブラリーとの一体的な利用も行える場 可能な限り既存樹を活用	・異学年間の外部空間での交流を促すため。 ・授業の間や空きコマ等の生徒の居場所を確保するため。	・生徒 ・教職員	・授業の空き時間などの生徒の居場所 ・樹木の手入れ ・科目『美術』などのスケッチ ・ハーブ栽培、ハーブティー楽しむ ・生徒ランチ
10. だんだんのにわ	・学校を居心地のよい空間とするためには教室を閉じられた空間とせず、屋外とのつながりを重視した空間構成が大切である。 ・テラスやバルコニーなどを教室からつながるように配置し、屋外と室内が一体となる空間があることで、リラックスできる快適な環境が生まれるだけでなく、屋外空間を活かした多様な学びや、屋外ならではのものづくりや実験、自然への探究等が深まってくる。	ラーニングパサージュとグラウンドをつなぐ階段、眺めを楽しめ、お昼や談話、部活の応援などが行える場所	・高低差のある校舎とグラウンドを繋ぐ動線を確保するため。 ・グラウンドの観覧スペースやESDの植栽活動の場として活用するため。	・生徒 ・教職員	・クラスマッチや文化祭等のイベントの観覧スペース ・農業実習、ESDや生徒会による植栽活動 ・生徒ランチ
11. ファームテラス		畑やコンポスト、小屋を備えたテラス 自然の営みや循環を体験しながら学べる場であり、作物を育てたり、土にふれたりする中で、地域の農を知る拠点	・農業の授業を展開する上で必要なため。	・生徒 ・教職員	・農業実習、ESDの活動などをもとに、農作物を育て、中野カフェに生かす ・生徒ランチ
12. 福祉テラス		福祉関係の実習で車いすの練習などに活用できる外部空間	・福祉の授業を展開する上で必要なため。	・生徒 ・教職員	・福祉関係の実習

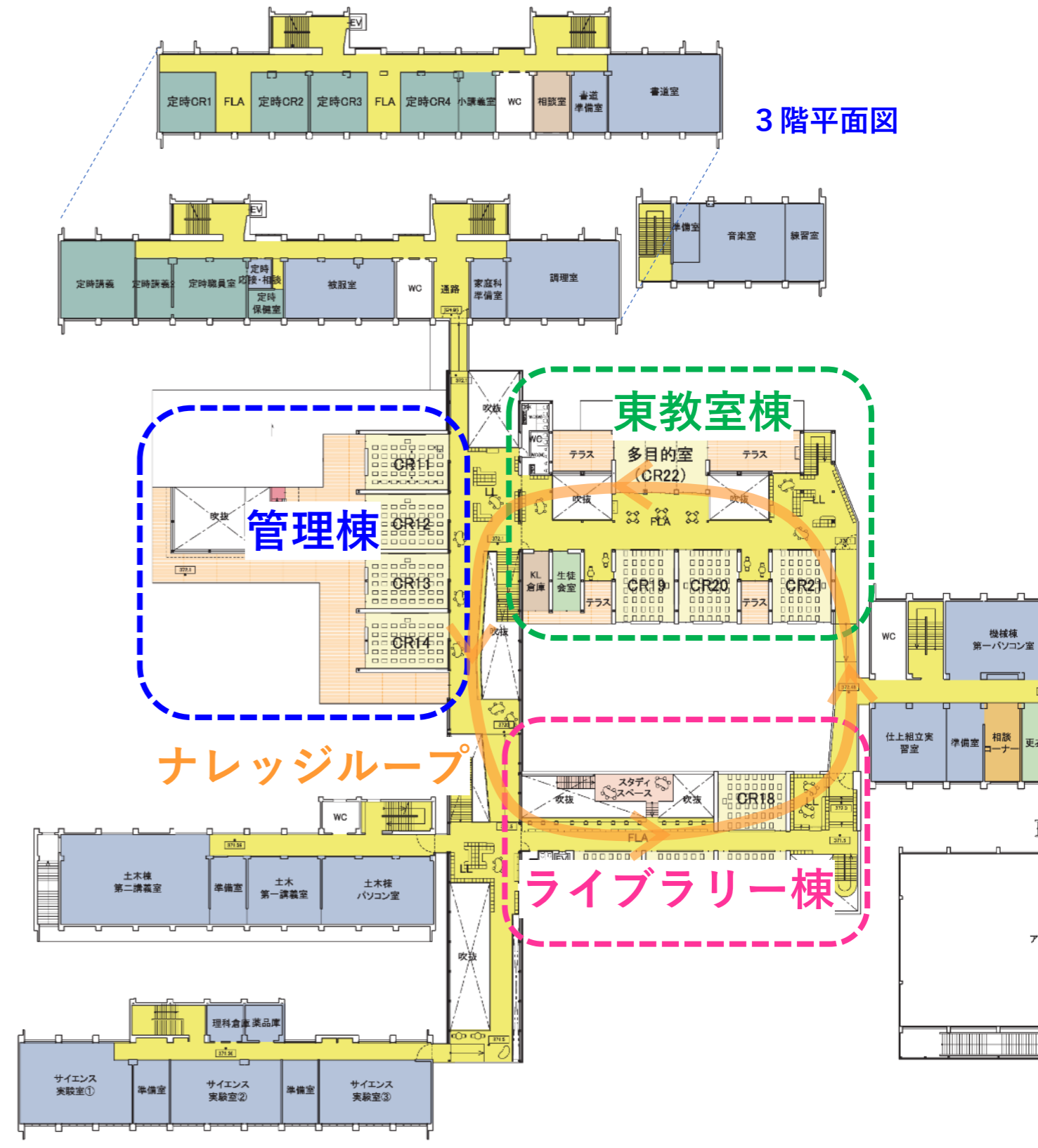
2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

全体平面図



1階平面図



3階平面図

2階平面図

- 〈凡例〉
- 普通教室
 - 特別教室
 - ライブラリー
 - 生徒会関係諸室
 - 管理諸室
 - 共用部
 - 先生・相談コーナー
 - 地域連携関係諸室
 - 定時制諸室

2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・ラーニングパサージュ

(基本計画図書抜粋)

■内部空間の計画-①ラーニングパサージュ

○生徒同士、先生一生徒間の交流を促し、学びや表現の舞台となるワンルーム

現状の立志館高校は、複数の校舎のあいだを開放渡り廊下で行き来する運用となっており、移動時の気温変化が著しい状況である。そこで、授業間移動の多い総合学科の特性を考慮し、校地中央に南北に長い2層の動線空間「ラーニングパサージュ」を配置し、新旧の校舎を内部空間でつなぐ計画とする。

ラーニングパサージュは動線を処理する廊下としてだけでなく、教室でも廊下でもない第3の学びの空間としての利用を想定し、幅8m程の幅広のワンルーム空間とする。

教室から遠征して小さめの講座を開いたり、授業や探究の成果物を掲示したり、各専門教科での制作物を展示したりするなど、新校の様々な活動に満ちた場所となることを想定している。

総合学科では1年生の間に各々が進路について考え、2・3年生で選択した進路の学びを深めていく。ラーニングパサージュでは1年生が2・3年生の学びに早期に出会い、各自の将来について考える助けとなる。



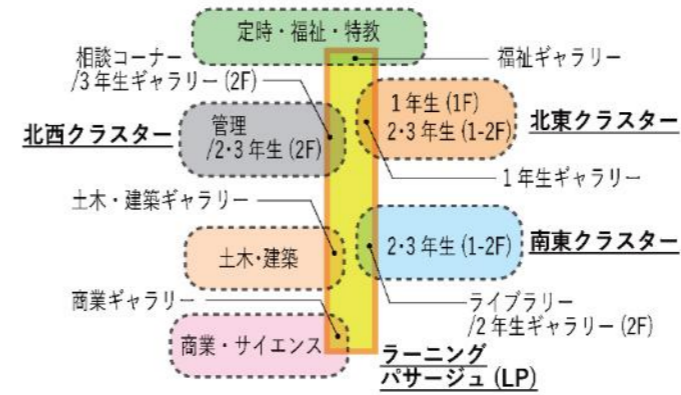
自習のためのカウンターデスクなどが充実した2階のイメージ



大きなワンルームの中に2階床が浮かぶような空間構成

○新旧をつなぎ、さまざまな専門科をつなぐアクティビティの骨格

既存棟も含めた専門系列ゾーンや新築の教室ゾーンがそれぞれクラスターを構成し安定した学びの場を確保するとともに、ラーニングパサージュがそれらを強力につなぎ、学生や先生の交流の軸となる。各クラスターとラーニングパサージュの接点は各学年の活動や探究成果を発表する「学年ギャラリー」や、各系列の学びを披露する「系列ギャラリー」とし、先生の居場所を含めた相談コーナーも併設するなど、多様な学びがそれぞれで孤立せず、コミュニケーションによる学びの深化を促すことを重視する。



ラーニングパサージュを軸として多様な学びがつながる



1年生ギャラリーや大職員室が顔を出すラーニングパサージュ1階



ライブラリーや専門系列の学びがラーニングパサージュに展開

○拡張したメディアセンターとしてのラーニングパサージュ

書架の並ぶライブラリーをラーニングパサージュに面して配置し、閲覧スペースや選書コーナーをラーニングパサージュに展開する。また、系列ギャラリーには専門の関連図書を並べることで、ラーニングパサージュ全体がメディアセンターとして生徒たちに一段深い学びの機会を提供する。アクティビティに対応した家具やスペースをワークショップなどにより検討し、個別最適～協働の多彩な学びのシーンが展開するようにする。開校後数十年にわたり使われる空間として、ICT環境の進展など様々な変化を受け入れられるよう、通風や採光といった基本的な空間の質を担保した強い骨格となるよう設計を進める。



2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・ラーニングパサージュ：「表現と交流の軸」

① 表現

総合学科の特徴である「様々な特色ある授業（学び）が実施されているさま」を多くの生徒や先生が見る／見られる状況をつくりだす

② 交流

人数規模や時間を横断し、「生徒／先生の多様なコミュニケーションのすがた」が展開する

■ <中野総合学科新校施設コンセプト>より抜粋

施設名	長野スクールデザイン2020の位置づけ（抜粋）	基本計画における記載内容	設置目的	利用対象	想定される活動内容（アイデア）
3.ラーニングパサージュ	<ul style="list-style-type: none"> 「探究的な学び」を実現するためには、学校内のいたるところで学びが展開できるように、空間の連続性や相互の連携が必要不可欠であり、空間と空間（教室、特別教室、大職員室、廊下等）を有機的に結びつけることができる「ハブ」となる空間が必要である。 空間を結び付けることで、教科の枠を超えた融合的な学びや、多様な授業形態に対応できる施設・空間となる。 「廊下」の幅員を部分的に拡張し、コーナーとしたり家具を配置するなど、移動以外の活動のきっかけを生み出し、生徒たちの多様な学びに柔軟に対応出来るしつらえとすることで、今までは通路としての機能を持っていた「廊下」が、普通教室や特別教室等とつながる「ハブ」としての役割を持つことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室でも廊下でもない第3の学びの空間 授業や探究の成果物を掲示したり、各専門科での制作物を展示したり、新校での様々な活動に満ちた場 総合学科では1年生が2、3年生の学びに早期に出会い、将来を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の校舎間の移動を内部空間で繋ぐことで、移動時の快適性を担保するため。 単なる通路ではなく、様々な活動や学びの場へ昇華させることで、校舎を効率的に活用するため。 総合学科という特徴を踏まえ、様々な学びの「見える化」を図るため。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒 教職員 (・地域住民) (・企業) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中などにおけるグループワーク／チームで協働しての作業／生徒個別の質問や相談に乗れる場所の設定 学年、進路行事／文化祭での販売、イベントスペース／科目選択説明会や企業説明会 空き時間、放課後における自主的な学習／自習カウンター モニター設置による、生徒への連絡掲示板 授業や探究などでの学びによる成果物の展示 探究などに活用できる書籍の配置／課題提出のための棚 部活動スペース お店、購買、商業科販売

■ラーニングパサージュワークショップでの意見（まとめ）

□想定される活動内容

授業×同期

- ・選択授業、グループ学習など「少人数の集合による授業」
- ・オープンディスカッション、自由参加型授業など「オープンな授業」
- ・長さを活かした車いす体験（福祉）、音の出る実験（理科）など「大空間を活かした授業」
- ・「地域と関わる授業」

授業×非同期

- ・授業の成果を「制作物展示」
- ・発表の様子や授業で作ったパワポの「映像展示」
- ・実習授業など、その時実施されている授業の「リアルタイムライブ配信」
- ・各授業の連絡事項や就職情報などの「映像配信」

授業外×同期

- ・先生と生徒の交流
- ・生徒同士の交流
- ・部活の活動の場（運動系、文科系）
- ・飲食スペース
- ・地域に開かれたイベントの舞台

授業外×非同期

- ・一人の居場所、自習
- ・情報発信⇄情報収集
- ・学校活動の成果掲示（授業、部活）

□設置されるものや仕様、設備などのイメージ

■可動家具

- ・可動式家具の方がいろいろな場面をつくりやすい
- ・パーテーションで区切って打ち合わせなど
- ・静かに動かせるかっこういい机・椅子
- ・組み合わせ型の机がたくさんほしい

■壁面

- ・全面ホワイトボード（マグネットつけられる）
- ・プロジェクター+ホワイトボード
- ・パソコン、スクリーン、ディスプレイ設置
- ・巨大スクリーンの設置

■床面

- ・人工芝 ・床アート ・ラダー（部活で利用）
- ・タタミコーナー（茶道や日本伝統文化を学べる）
- ・じゅうたんコーナー ゴロゴロできる

■ブース

- ・ブースの設置（囲われたブースがあると生徒の居場所にもなるが、職員同士の打ち合わせや職員と外部業者との打ち合わせにも使える）
- ・少人数授業のできる囲われたスペース
- ・屋台

■設備

- ・ルンバでお掃除（電気と機械で制作）
- ・自動販売機 ・ウォーターサーバー

■設計への反映

ラーニングパサージュを構成する設えを、**空間への固定度を4段階に分けて整理し、空間に配置**します。

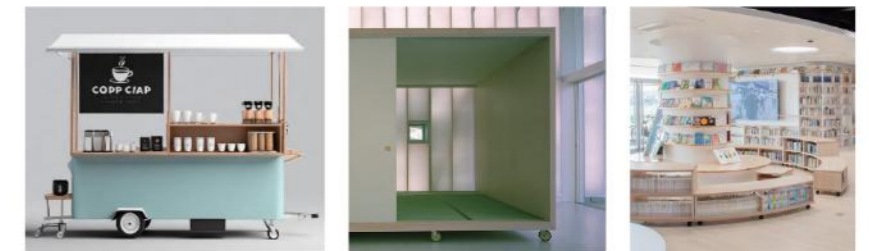
A.固定(半固定)の設え・家具

：床・壁の仕上げ、専科ギャラリー、個室ブース、カウンターデスク、手洗いシンク、大テーブル、展示兼用本棚 etc



B.可動の設え・家具(造作)

：屋台、タタミ座敷、本棚丸ベンチ etc



C.可動の設え・家具(備品)

：キャスター付きイス、キャスター付きテーブル(台形、ビーンズ等)、掲示パーテーション、キャスター付き本棚 etc



D.倉庫

※家具類はあくまでもイメージです。

→ 「がらんどろ」で、「自由に使える」空間であることを基本としつつ、様々なアクティビティをサポートする「壁や床」「固定家具」「可動家具」などをバランスよく計画

2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・ 教室まわり、ライブラリー

(基本計画図書抜粋)

■内部空間の計画-②教室まわり

○ESDの基礎を学ぶ”家”のような1年生教室ゾーン

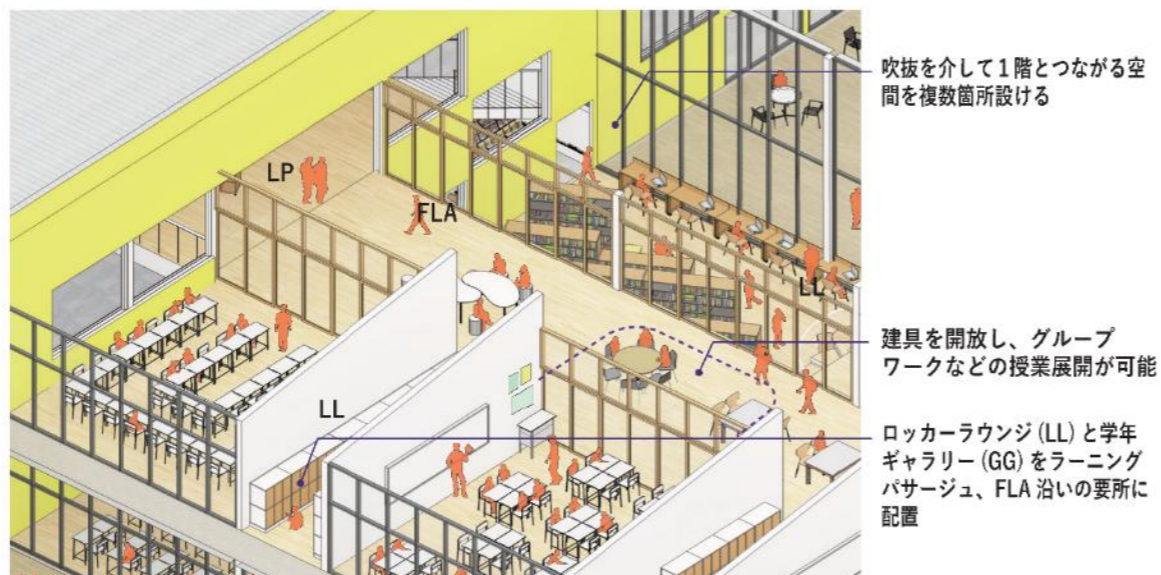
必修科目がメインの1年生は、ホームルームとなる普通教室が主な居場所となる。ESDの基礎を落ち着いて学べるよう、他学年の通り抜け動線とならない北西クラスターの1階に配置し、安定した学習・生活環境を確保する。各ホームルーム教室が独立し、教室と連続して学びの場所をつくるFLA（フレキシブル・ラーニング・エリア）を教室の周りに十分に確保する。広々としたFLAや外部テラスまで活用し、様々な拡張した学びのかたちを実践することが可能な空間を計画する。



他学年の通過動線とならず、落ち着いた学習環境の1年生ゾーンのイメージ

○多様な選択科目に対応し、回遊動線でつながる2・3年生教室ゾーン

選択科目がメインとなる2・3年生は、各々の時間割に応じて移動する学習スタイルとなるため、学年毎のまとまりは作りすぎず、2階を中心に新校舎全体に教室を配置する。LP沿いやFLAには学年のLLとGGを散りばめ、生徒たちの生活・発表の拠点を確保する。十分なFLAを確保し、2室をつなげた授業に対応可能な多目的教室を複数設置する。2・3年生の専用フロアである2階は、LPを動線の中心としつつ、北東・南東クラスターの東側をブリッジでつなぎ、機械・電気実習棟へのアクセスも確保した回遊式のプランとする。



2・3年生の教室群が回遊動線でつながる2階のイメージ

■内部空間の計画-③ロッカーラウンジ

○総合学科の学びを支え、居場所にもなるロッカースペース

授業ごとに異なる教室間を動く総合学科では、普通科高校のように各教室に生徒のロッカーを設置するのではなく、教室外の共用部にロッカーを適切に計画する必要がある。新校では、このロッカースペースを生徒の居場所や交流拠点となるようにまとまりのある空間=ロッカーラウンジとして、共用部の要所に配置する。クラス単位の学びが多い1年生は2クラスで1カ所程度のロッカーラウンジを、選択科目が多様になる2・3年生は4クラスで1カ所程度のまとまりのあるロッカーラウンジを計画する。ロッカーラウンジには学年ギャラリーを併設し、学びの成果をディスプレイ出来る設えを検討する。



2・3年生の拠点となるロッカーラウンジと学年ギャラリー

■内部空間の計画-④ライブラリー

○学校の中心に据えられ、多様な学びを支えるライブラリー

ライブラリーをラーニングパスージュに面し、アクセスのしやすい昇降口すぐの場所に配置する。こもれびのにもわにも面しており、内外連続的な利用を促す配置である。南側の多目的教室をメディアラーニング教室と位置づけることも視野に入れ、ラーニングパスージュを中心にこもれびのにもわ〜だんだんのにもわまでを先端的な学びが展開する、学校の中心的空间となるよう計画を深めていく。



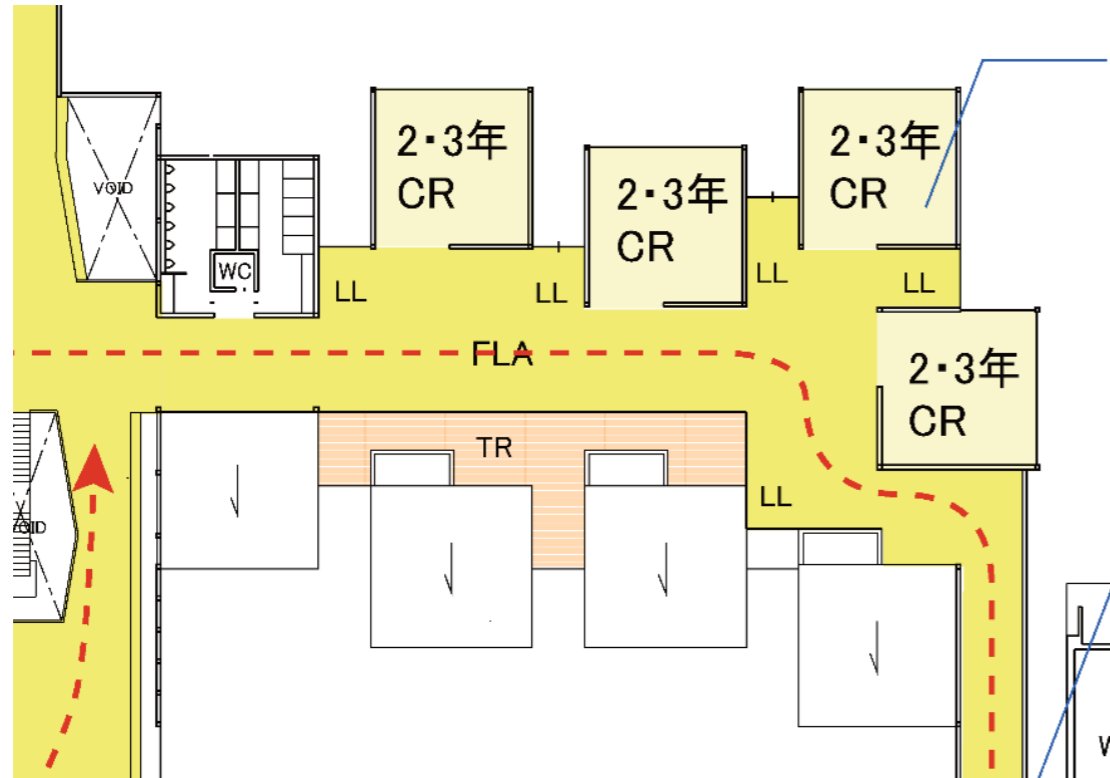
ラーニングパスージュやこもれびのにもわと連続し、2階へも吹抜でつながるライブラリー

2. 基本設計内容について

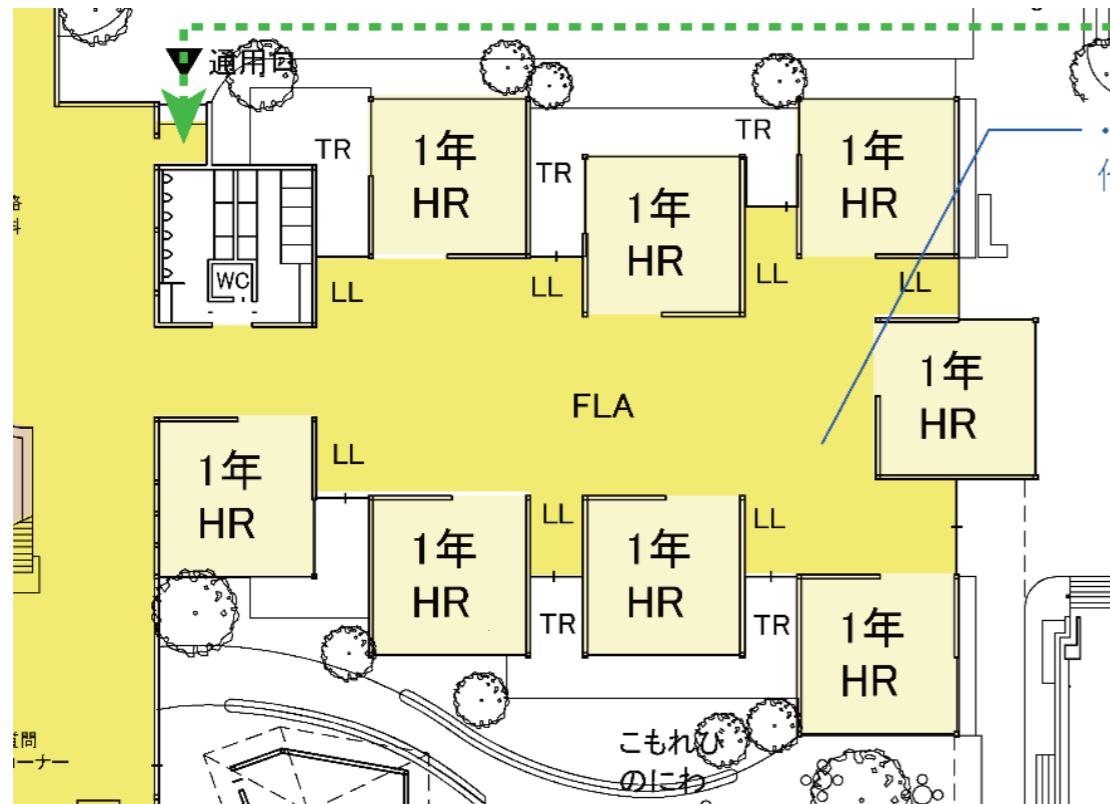
第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

- 東教室棟（1階1年生教室ゾーン／2階2・3年生教室ゾーン）

基本計画時

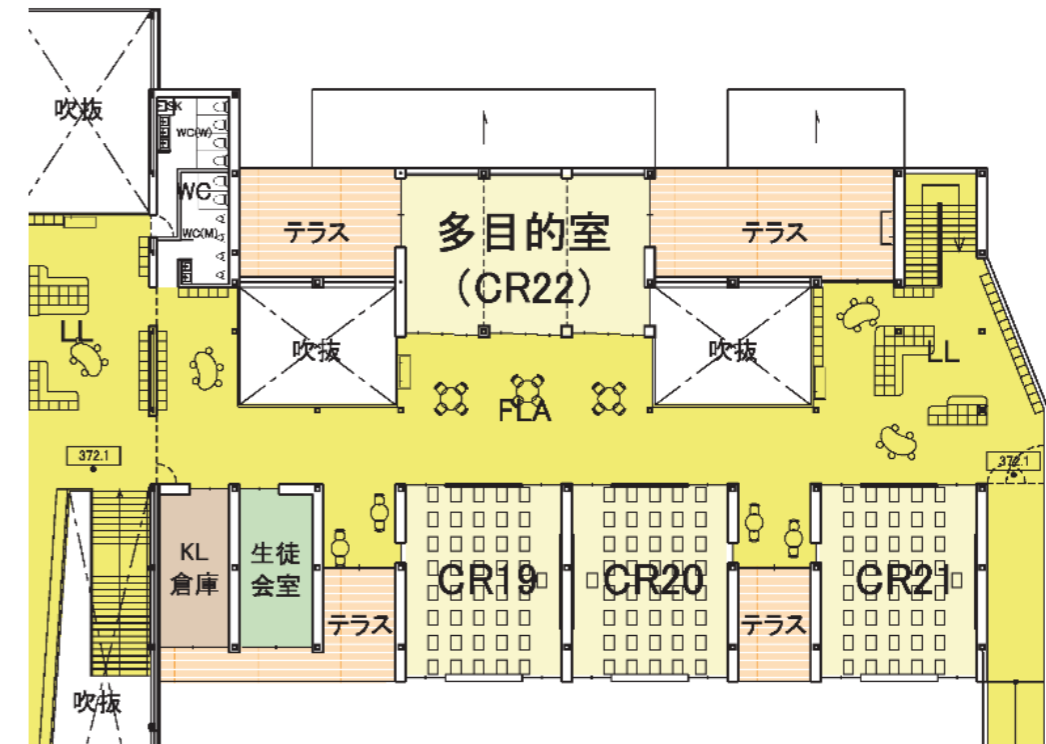


2階平面図

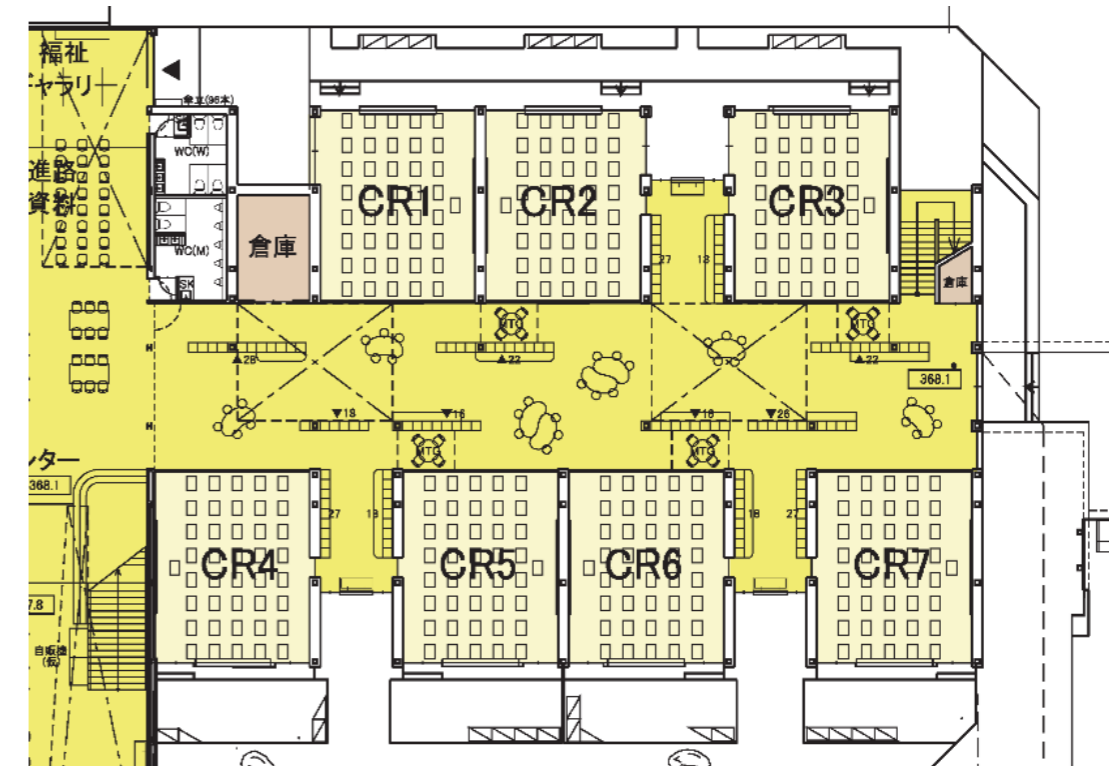


1階平面図

基本設計



2階平面図



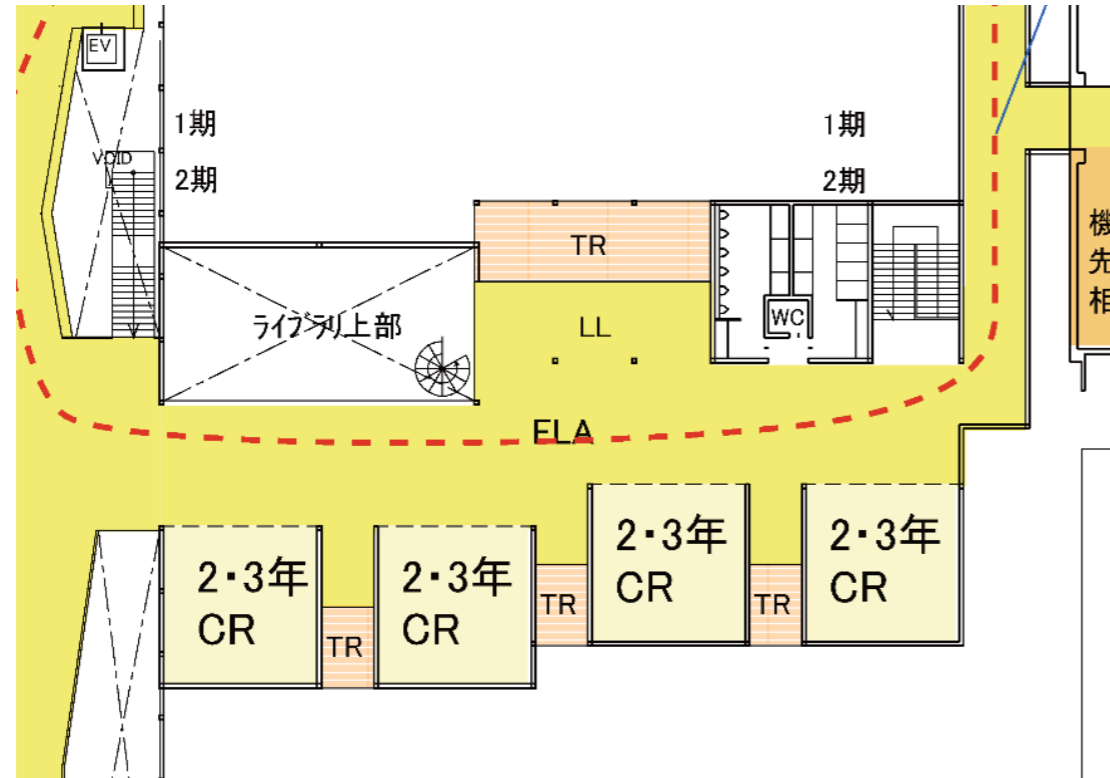
1階平面図

2. 基本設計内容について

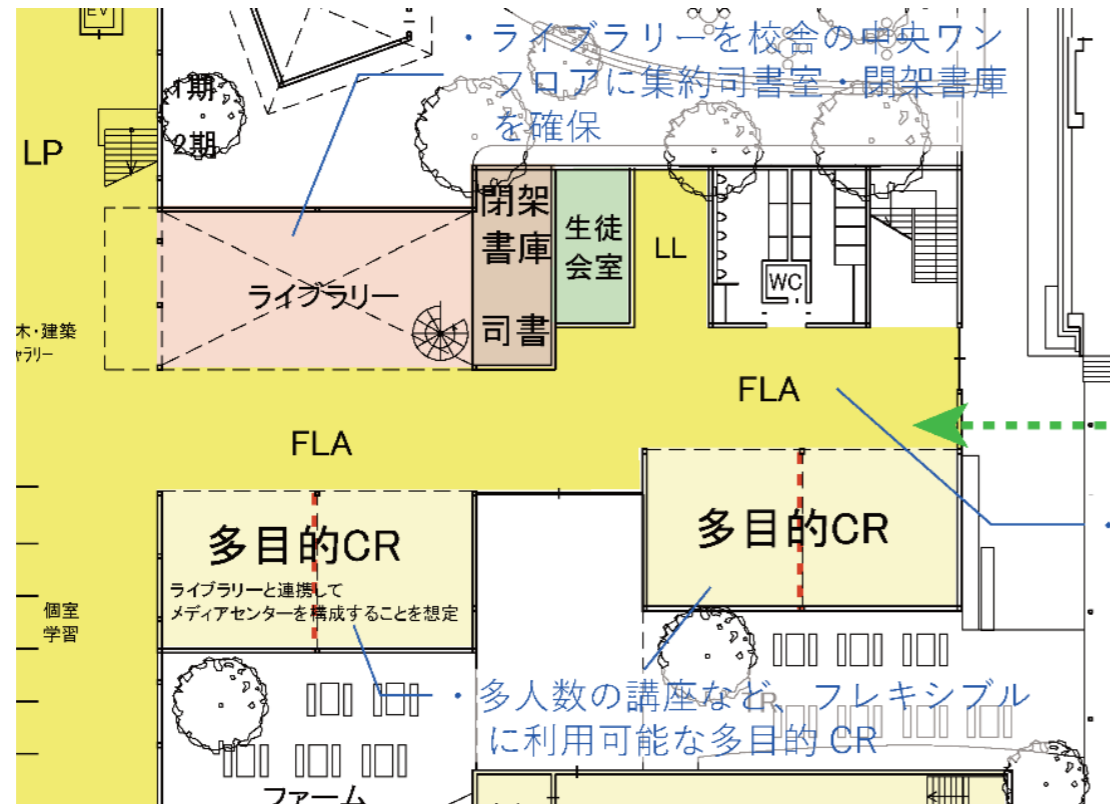
第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

- ・ ライブラリー棟 (1階ライブラリー+2・3年生教室 / 2階2・3年生教室)

基本計画時

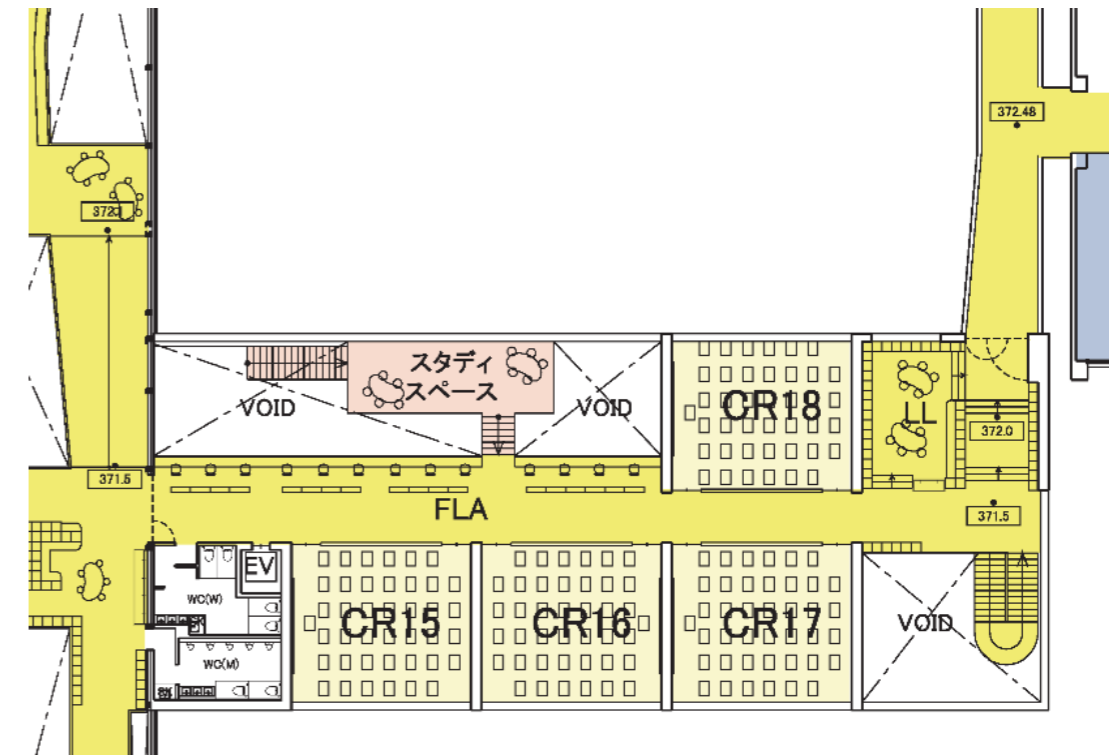


2階平面図

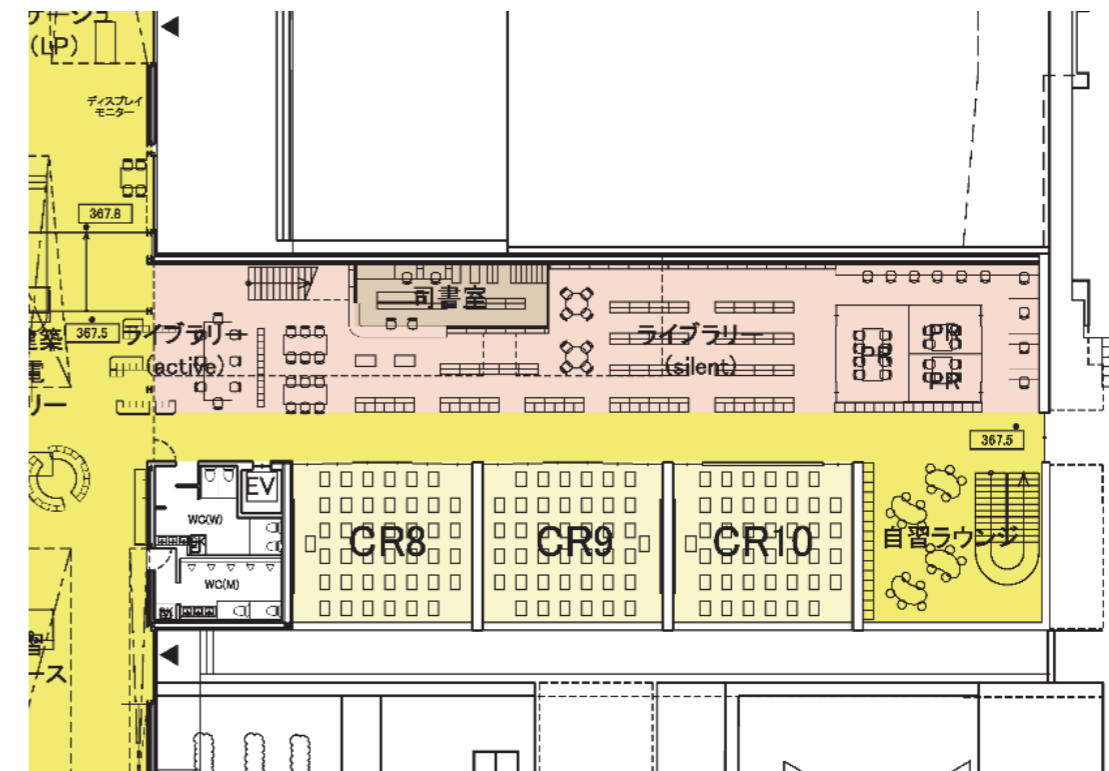


1階平面図

基本設計



2階平面図



1階平面図

1. 中野総合学校新校（仮称）の目指す校舎について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・管理棟（ソソラひろば、中野カフェ、ファブラボ）

（基本計画図書抜粋）

■外部空間の計画-①ソソラひろば

○両校の歴史を継承し、パブリックスペースの起点となる

学校の玄関口には地域イベントにも対応した多目的の「ソソラひろば」を設け、ソソラホール、中野市役所と連携して中野のパブリックスペースの起点をめざす。まちの中心に位置する高校として、また、将来的な地域施設への部分転用も視野に入れ、地域の人々が訪れやすい開かれた高校の構えを検討する。



中町通りがわに開かれたソソラひろばのイメージ

○様々な活動のモードチェンジをフレキシブルに受け入れる設え

ソソラひろばは前面の中町通りの歩道舗装を引き込み、様々な活動のモードチェンジをフレキシブルに受け入れる設えを検討する。

■日常時（昼休み）

■文化祭・学内行事

■地域イベント連携



ソソラひろばのモードチェンジの例

○統合する両校の特徴を継承し、まちとの接点をつくる仕掛け

西高校で実践されてきた中西珈琲の取組を継承した「中野カフェ（地域連携協働室）」、立志館高校の専門性を活かしたものづくり工房「ファブラボ」を、両校統合の象徴としてひろばに面して配置し、地域の人々を迎え入れる。各空間の運用方法を綿密に検討する。



地域連携協働室を兼ねた中野カフェのイメージ



土木建築実習棟の一部を改修したファブラボ

■外部空間の計画-②こもれびのになわ

○学年横断的な交流を促す「こもれびのになわ」

校舎の間は、多様な性格の「にわ」を計画し、建物内だけでなく外部空間も大事な学びの空間として設える。それぞれの「にわ」が面する校舎の用途的・空間的な特徴に応じて、適切な外構の設えを計画する。北東クラスターと南東クラスターの間「こもれびのになわ」は、北の1年生ゾーンと南の2・3年生ゾーン、ライブラリーに挟まれ、異学年の交流が期待できる空間であり、授業間の空きコマや休み時間を過ごす憩いの場として、さまざまな交流の機会を生み出す場所となることを目指す。

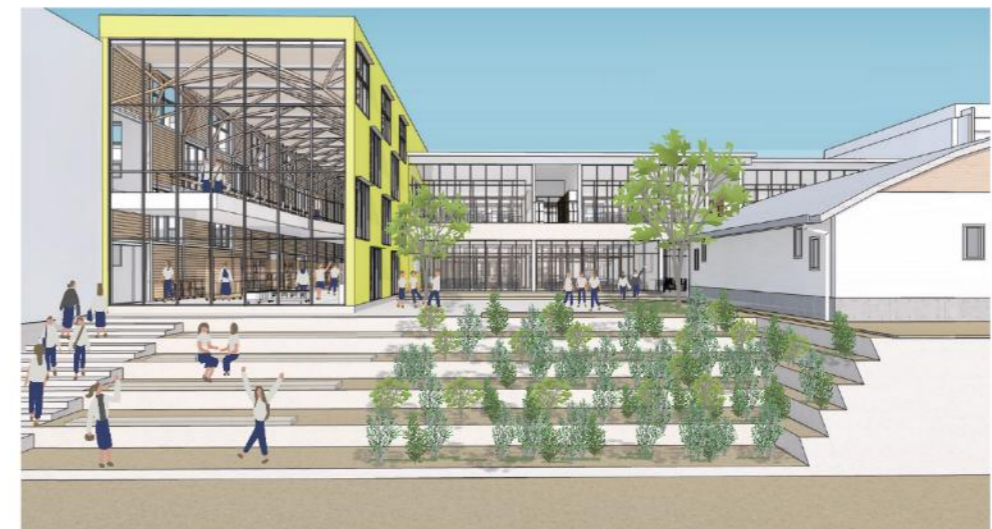


教室から出やすいデッキ仕上を中心とした「こもれびのになわ」のイメージ

■外部空間の計画-③だんだんのになわ

○校地とグラウンドをつなぐ新たな居場所

現状の立志館高校では校舎の建つ地盤レベルとグラウンドレベルの高低差2m程を階段でつないでいるが、この高低差をゆるやかなステップ状のになわでつなぐことで、高低差を活かした新たな居場所を創出する。ユネスコスクールのESD活動の一環である植栽活動の苗床としての活用（ファームテラス）や、グラウンドでのイベントの観覧スペースとしての利用など、中野の緩やかな勾配地形を感じられる貴重な外部空間として、外構計画を検討していく。



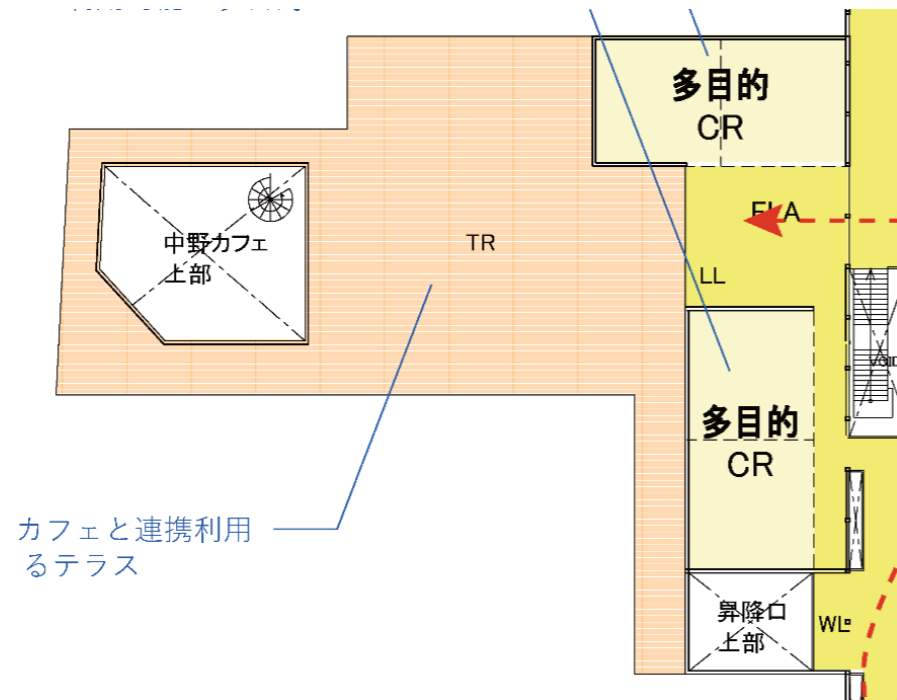
だんだんのになわ・ファームテラスのイメージ

2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

- 管理棟 (1階中野カフェ、ファブラボ / 2階2・3年生教室)

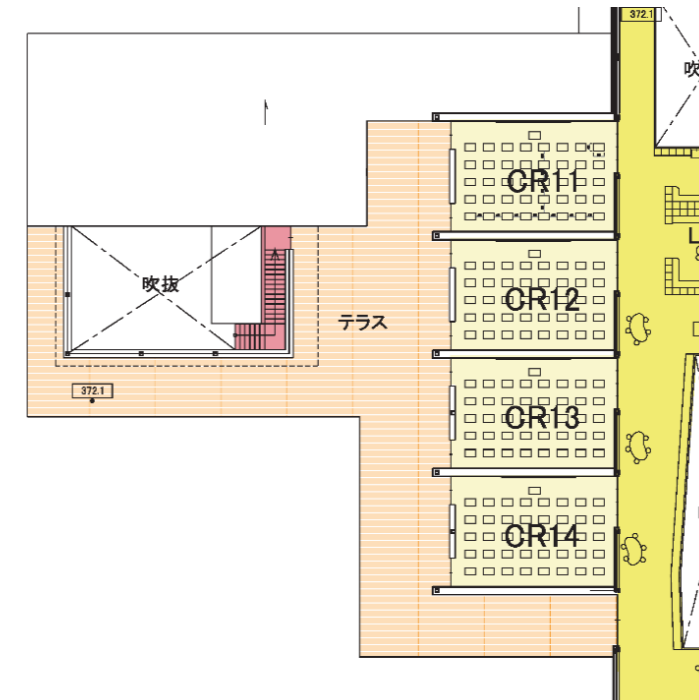
基本計画時



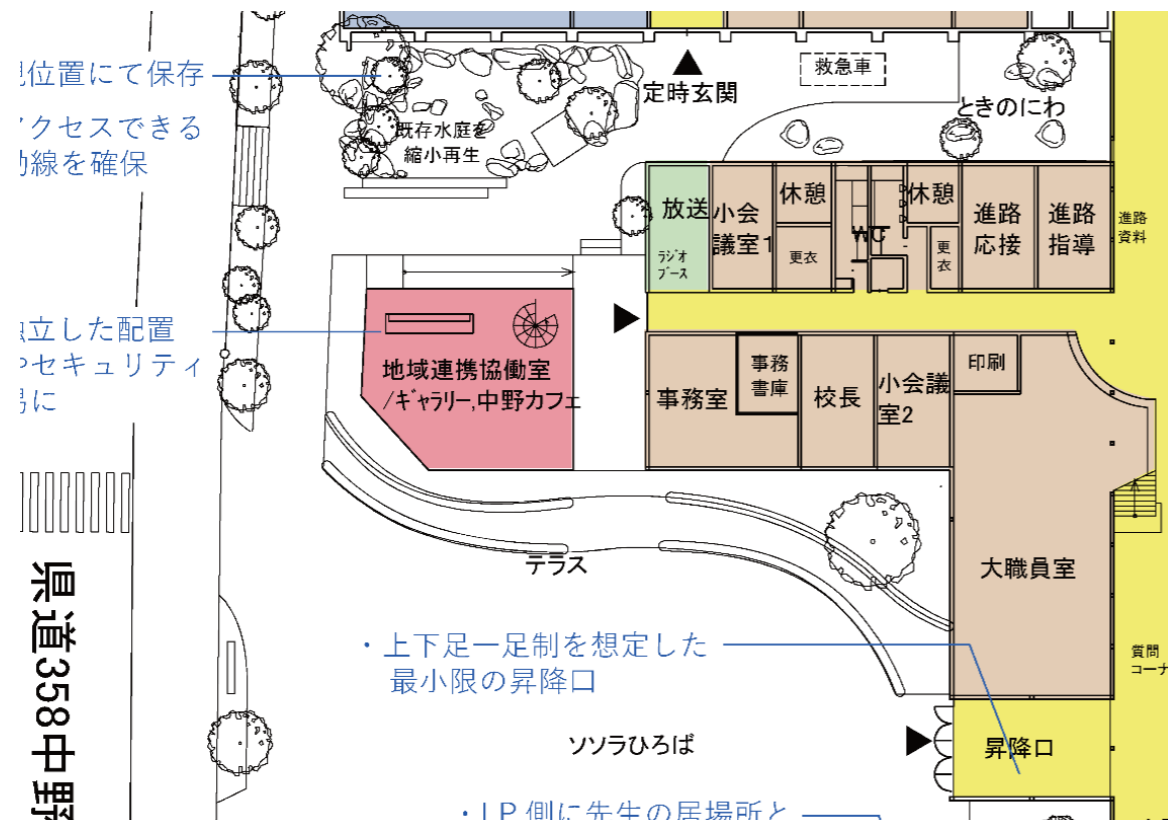
2階平面図

カフェと連携利用
するテラス

基本設計



2階平面図



1階平面図

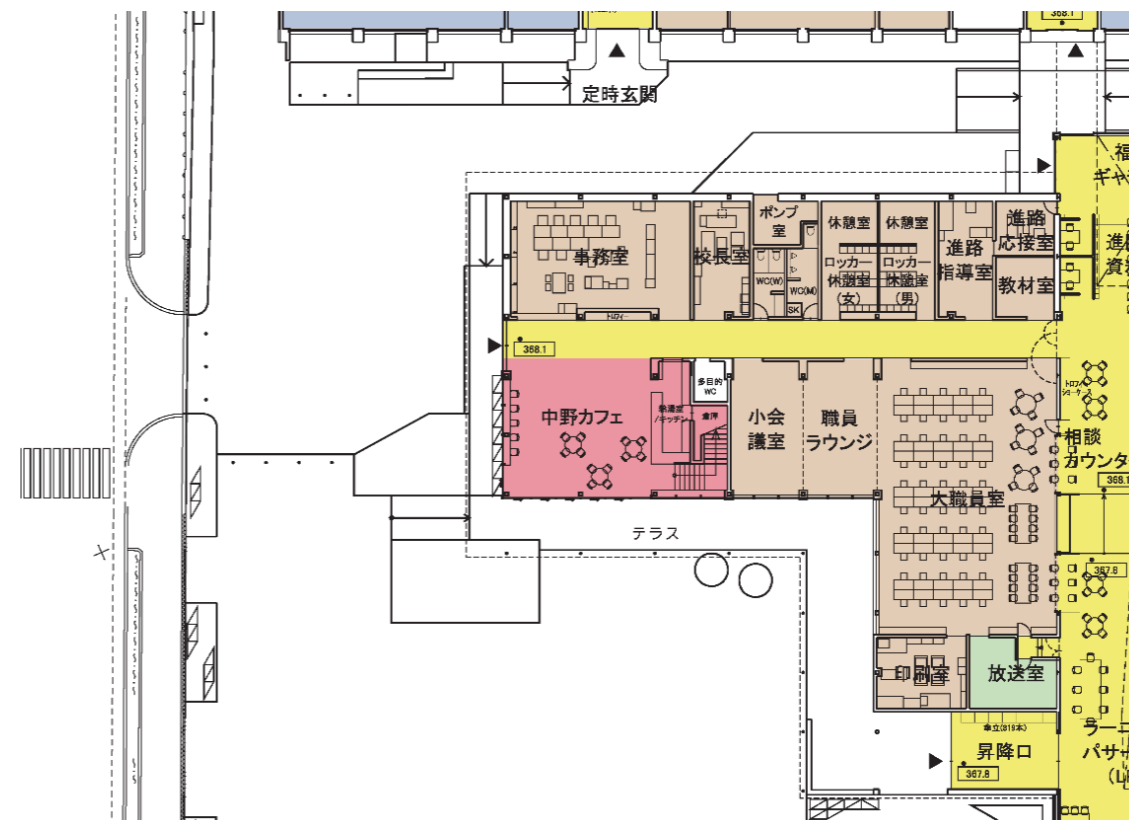
位置にて保存
アクセスできる
線を確保

立した配置
セキュリティ
に

上下足一足制を想定した
最小限の昇降口

ソラひろば
LP側に先生の居場所と

県道358中野



1階平面図

2. 基本設計内容について

- ・ 外構（広場・植栽計画、動線計画、駐車・駐輪計画）

<断面イメージ>

扇央のゆるやかな傾斜の地形



2. 基本設計内容について

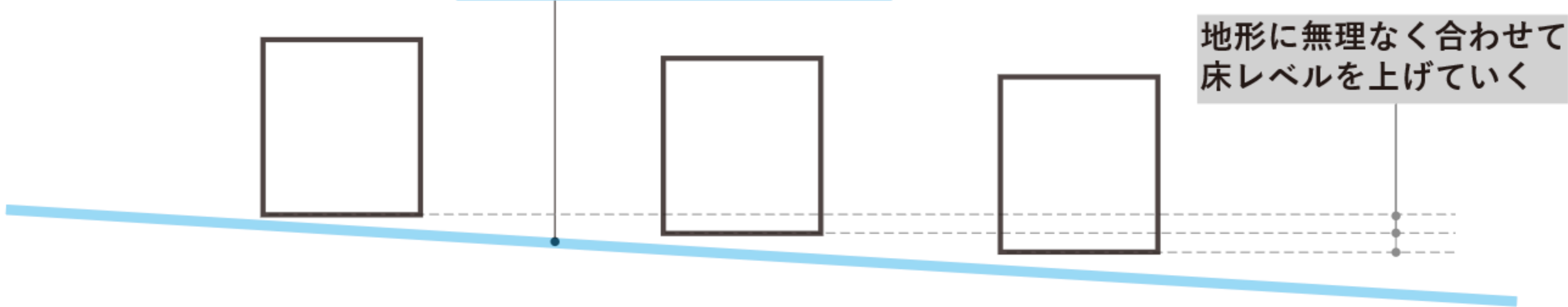
第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

- ・ 外構（広場・植栽計画、動線計画、駐車・駐輪計画）

<断面イメージ>

扇中央のゆるやかな傾斜の地形

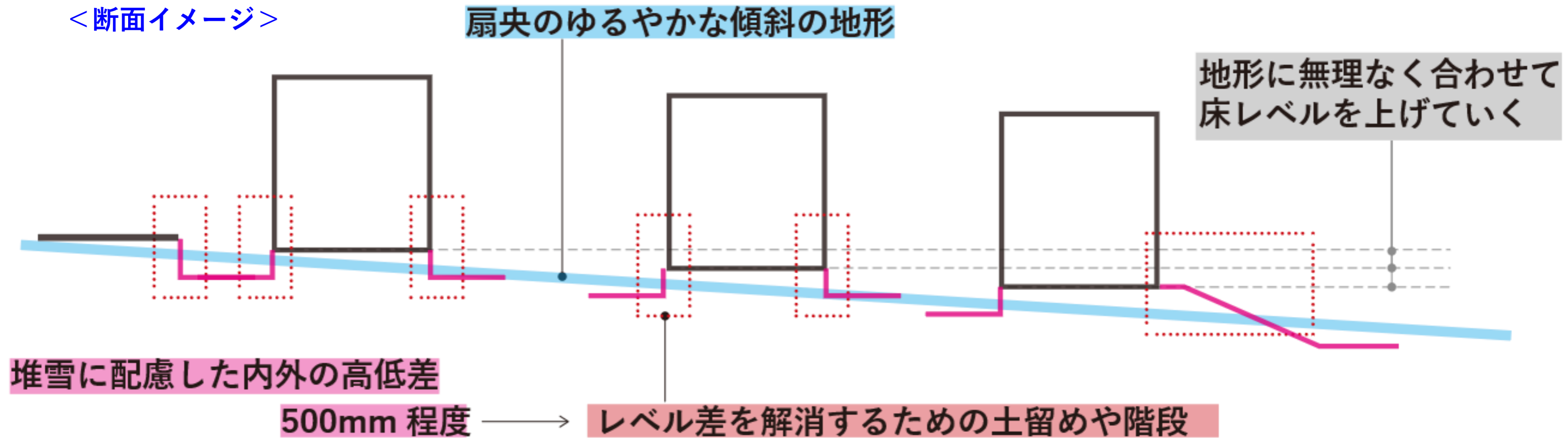
地形に無理なく合わせて
床レベルを上げていく



2. 基本設計内容について

- ・ 外構（広場・植栽計画、動線計画、駐車・駐輪計画）

<断面イメージ>

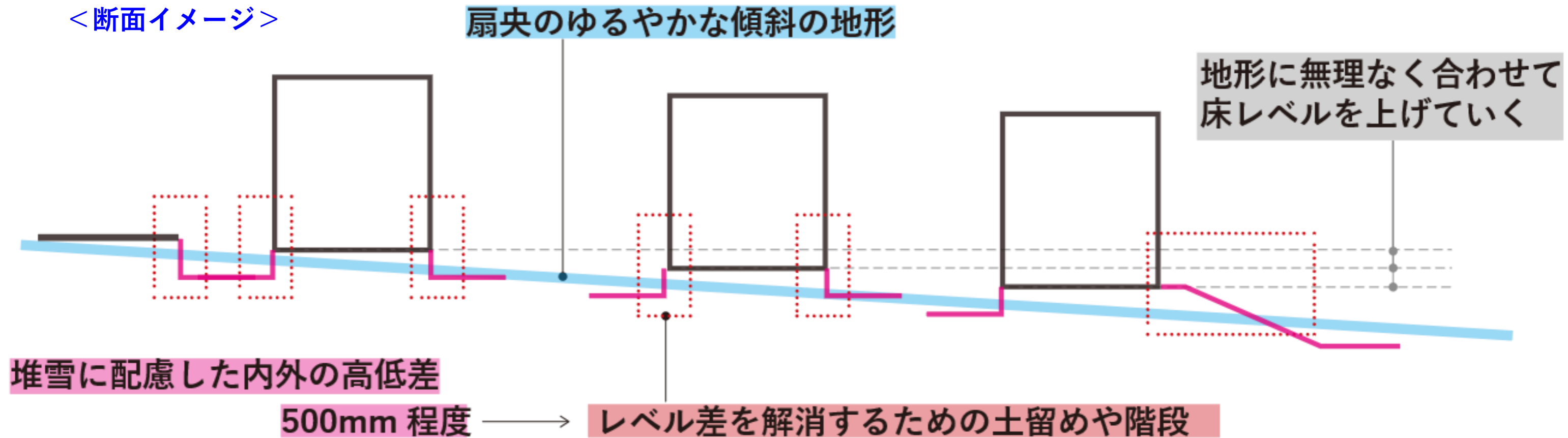


2. 基本設計内容について

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

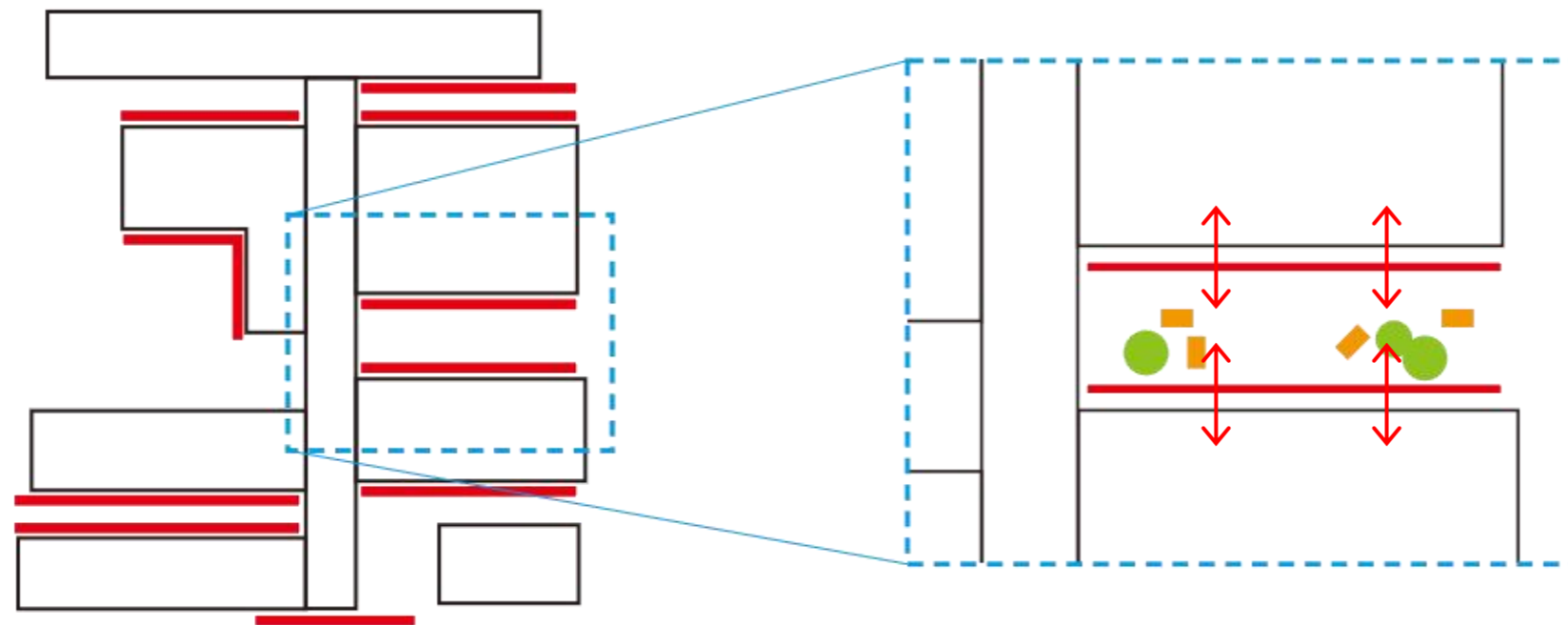
- ・ 外構（広場・植栽計画、動線計画、駐車・駐輪計画）

<断面イメージ>



<平面イメージ>

→単なる付帯要素ではなく、
「居場所」をつくるための骨格と位置付ける

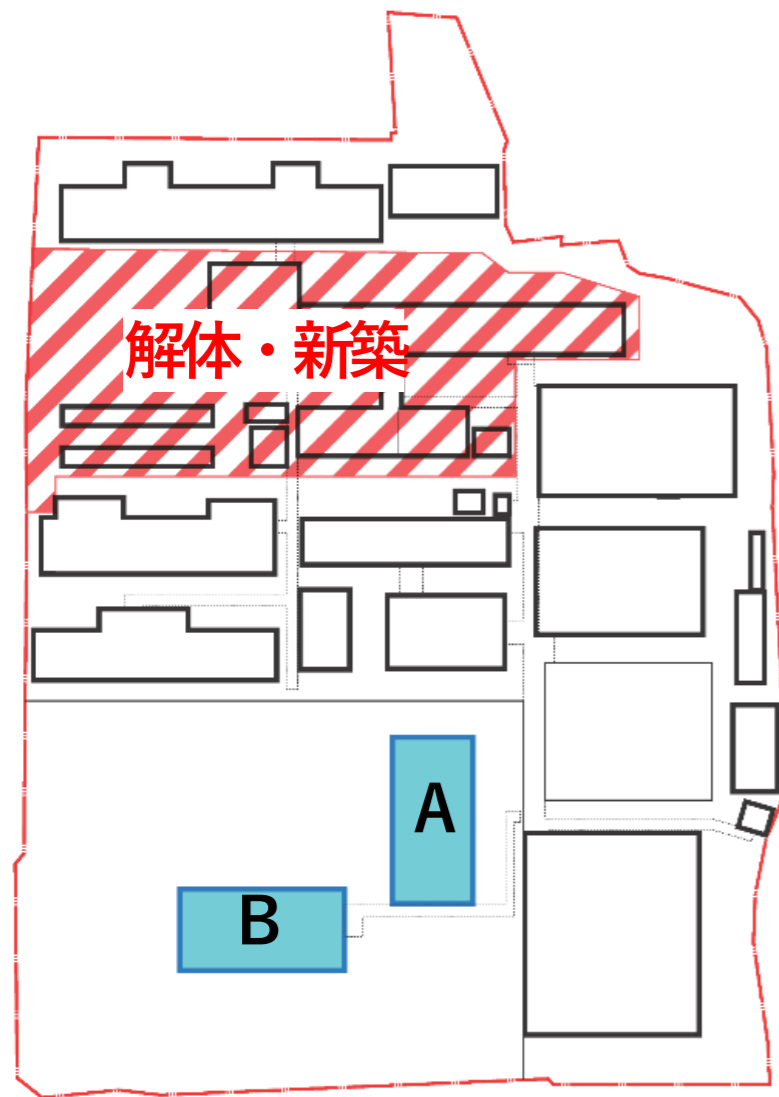


3. 整備プロセスについて

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

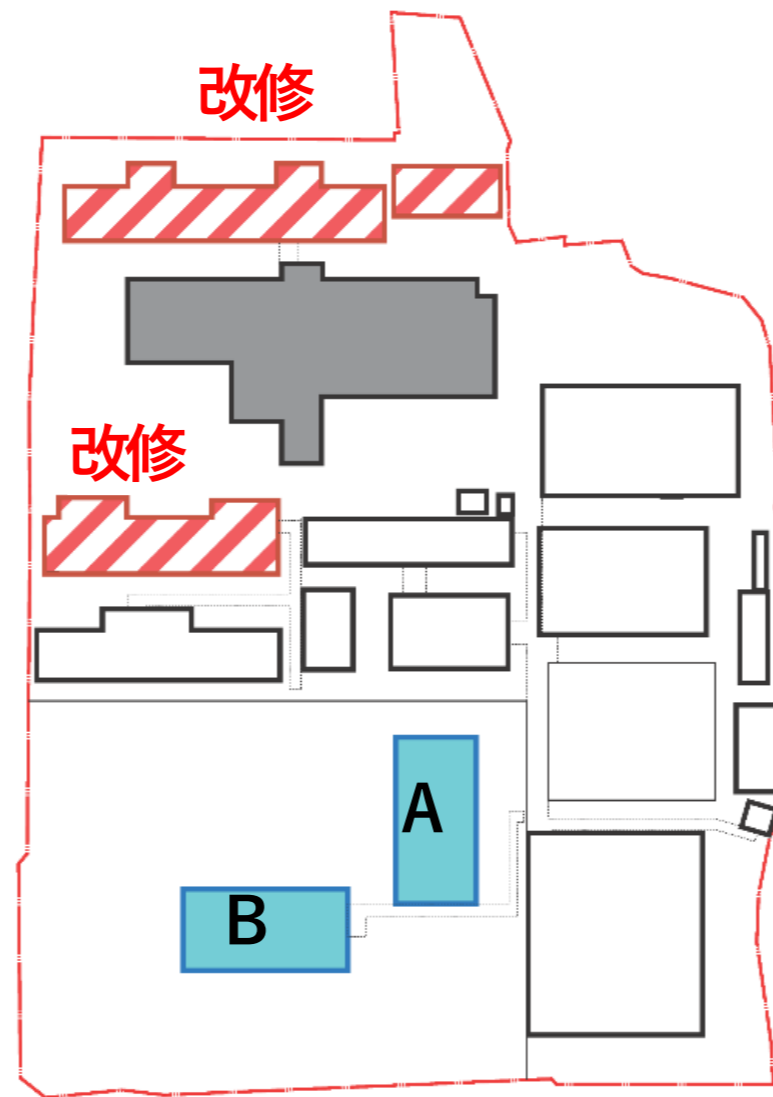
- ・ 工事ステップイメージ（3回の引越し）

仮設1期



- ・ 四階棟・定時棟などの解体
- ・ 新校舎北側半分の新築

仮設2期



- ・ 新校舎の北側半分が完成
- ・ 管理棟の改修
- ・ 土木棟の改修

仮設3期



- ・ 新校舎の南側半分の解体
- ・ 新校舎の南側半分の新築
- ・ 商業棟の改修

3. 整備プロセスについて

第19回中野総合学科新校再編実施計画懇話会時資料
この資料は基本設計段階のものであり、今後変更の可能性もあります。

・ 仮設校舎配置

